

令和7年度 下永谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

○担当地区の高齢化が進み、一人暮らしや高齢者世帯の増加が進んでおります。また、長年活動を続けてきた地域団体やボランティアの方々の高齢化などの理由で、坂の勾配がきつい場所にある施設への来所が困難と考える方も多くいます。
○施設に呼び込む事業だけではなく、職員が積極的に地域に出向く事業展開を進めていき、気軽に外出が出来る機会を増やし、介護予防事業の実施などに加え、移動相談所的な役割を担っていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症の本人や家族が通ったり、集える場の提供を検討など、チームオレンジの取組を進める目的で、「こころバCafé」・「こころバ交流会」を毎月開催する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ママサロンとして令和3年に立ち上げてから数年が経ち、卒業後の集える場所があればと参加者の声もあり、学齢期の保護者向けの「ママサロン」とは別に「誰もが自由に参加できる場」を新しく設ける話し合いを進める。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	「よろず相談窓口」としてのケアプラザ機能を他機関と共有する機会を作るとともに、地域に周知していく。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域の担い手不足や活動の停滞が見られる団体に対して、活動再開や継続のきっかけとなるよう働きかける。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

○「こころバCafé」や「こころバ交流会」を定期的で開催し、認知症サポーター養成講座の検討・実施に向けチームオレンジとしての取組を進めることが出来ました。また、色鉛筆サロン、さくら☼カフェなど他のチームオレンジ事業でも、認知症の本人や家族も含め、誰もが安心して集う場として、参加者同士の交流を深めることもできました。
○区や関係機関と連携し、学齢期の障がい児保護者向けにママサロンを開催し、情報交換や課題の解決に向けて定期的に話し合いを行うことが出来ました。卒業後も集える場の検討を重ね、令和8年度から「誰もが自由に参加できる場」(名称未定)の開催が決まりました。
○作成・配布した包括カードを活用し、相談者だけではなく、地域や他機関への周知を行い、「よろず相談窓口」としてのケアプラザ機能を周知することが出来ました。
○地域で「こころバcafé」を参考に1回りのポッチャ活動が始まるなど、自主的な活動につながりつつある。今後、数年を目安に、地域の自立した活動に結びつくよう継続してサポートを行っていきます。

区からのコメント

積極的に地域へ出向いて地域ケアプラザの機能周知に努め、包括支援センターの認知度を高められたことは、相談できる場所が身近にあるということを多くの住民が知り、日頃の安心感につながったと思います。また、今年度は「第5期港南ひまわりプラン(地区別計画)」の策定において、地域の皆さんとご協力いただき、ありがとうございました。
こころバcaféや色鉛筆サロン、認知症サポーター養成講座においては、子どもが興味を引くツールを活用する等、工夫を凝らした活動や、企業、施設との連携を通じたより効果的な取組により、認知症の普及啓発が進められています。また、権利擁護事業においては、消費者被害に関する予防的な注意喚起や啓発のみならず、契約の解除に向けた支援の実施、高齢者虐待においては、養護者との関係構築や粘り強い関わりを通じて、虐待リスクの軽減につなげ、高齢者の安全な生活に寄与しています。
包括的・継続的ケアマネジメント業務においては、ケアマネジャーとの同行訪問やプラン作成助言等による丁寧な信頼関係構築・スキル支援を実施し、地域住民のニーズに応じ、たすけあい連絡会や他資源をつなぐなど、高齢者の生活を支える資源開拓に努めています。協力医や在宅医療連携室に限らず、近隣の医療機関や介護事業所等とも良好な関係が構築されていることで、困難ケースやがん末期等で迅速な調整を要するケースについても本人や家族の意向を尊重した支援を実施しています。
介護予防ケアマネジメントにおいては、地域住民の自立支援のため、企業と連携した測定会やヘルスチェック、施設との足浴、講座の実施やSNSを活用した取組みだけではなく、地域と企業をつなぎ、自立して健康づくりに取り組めるよう支援等を行っており、地域力の向上につながっていると考えます。また、地域ケア会議においては、生活支援コーディネーターを含め、認知症、独居高齢者、生活困窮者等、重点的な地域の課題をテーマとして取り上げ、共通認識の醸成と課題の検討を行っており、今後の政策的な取組につなげることが期待できると考えます。
引き続き、取組みを継続し、地域の生活の安定と健康づくりを推進していただきたいと思います。